

子どもに多い マイコプラズマ肺炎

ドクターズコンテンツシリーズ#27

はじめに

がん、心臓病、脳卒中に続いて、日本人の死亡原因の第4位が肺炎です。
病気を正しく理解し、予防と早めの対策をすることが肝心です。



Doctor

はるこどもクリニック

高柳 滋治 先生

肺炎とは

肺が炎症を起こす病気です。
一般的に「肺炎」といった場合は、＜感染性の肺炎＞のものを指す傾向があります。

分類	感染性の肺炎	非感染性の肺炎
主な肺炎	細菌性肺炎 ウイルス性肺炎 真菌性肺炎 など	薬剤性肺炎 アレルギー性肺炎 など

「マイコプラズマ肺炎」の基礎知識

特徴

マイコプラズマ肺炎は、上記の「一般的な肺炎」よりも症状が軽いので、「風邪が長引いている」と見逃してしまうことがあります。
発見が遅れ症状が悪化すると、他の疾患を併発し、入院が必要になることもありますので、早期発見・治療を開始することが重要です。

主な発症年齢

発症年齢は8～9歳がピークです。乳幼児に感染した場合は風邪程度で済みますが、学童期頃になると肺炎を起こします。同じように、大人が感染した場合も肺炎になります。

主な症状

- ・ノドの痛み
- ・鼻水、鼻づまり
- ・37℃程度の微熱から39℃以上の高熱
- ・乾いた咳が特徴です。痰が絡む場合もあります。(解熱した後も、咳が長く続くことがあります。)
- ・ぜんそくがあった場合は悪化
- ・呼吸困難

鼻水、鼻づまり

ノドの痛み
乾いた咳
呼吸困難



感染経路

マイコプラズマ肺炎は、痰や唾液、咳で人にうつる飛沫感染です。
そのため、学校や会社など集団生活をしている環境で感染が拡がりやすく、流行となりやすいのです。

マイコプラズマ肺炎の対処法

マイコプラズマが検出されれば、抗生剤を投与して治療を開始します。しかし、**抗生剤を服用しても症状が改善しないケースがあるため、注意が必要です。**
抗生剤を服用後、48時間経っても熱が下がらない場合は、**抗生剤の種類を変える必要がありますので、再度医師の診断を受けましょう。**



咳の対策

発症後、熱は下がっても咳だけが長く続き、1カ月近く続いてしまうことがあります。
咳のし過ぎで気管支を傷つけてしまい、痰に血が混じることもあります。
咳の症状が出たら、以下の対策をとりましょう。

・水分をたくさんとる

・咳止めをつかう

・背中を軽く叩いてやる

・加湿器などで湿度を上げる (※乾いた咳が出るため)

予防法

マイコプラズマ肺炎は抗生剤で治りますが、予防が重要です。
十分な睡眠と栄養摂取、うがい手洗いをしましょう。
家族感染をしやすいため、家族内でもうがい手洗いをまめにいきましょう。
なるべく人ごみを避けることも効果的です。



！ 何度もかかる「マイコプラズマ肺炎」

マイコプラズマに対する抗体は一時的にできますが、持続性はなく弱まっていきます。
一度発症し抗体が出来ると二度と発症しない病気も多いなか、マイコプラズマ肺炎は何度も発症します。
子どもが発症し、看病をしている大人がマイコプラズマ肺炎にかかってしまうケースもあります。

ドクターからのメッセージ

たかが肺炎、されど肺炎。
マイコプラズマ肺炎は、症状が軽い段階で診断を受ければ完治できる病気です。
けれど放っておいてしまうと、まれに重症化したり、違う病気を引き起こすこともあります。
お母さんが「いつもの風邪とは違う感じだな」と思ったら、医師にきちんと伝えてください。
「いつもの状態」を医師は知りませんから、診察室でのお子さんの状態から診断をしています。
とくにマイコプラズマ肺炎については症状が強いものではないため、判断しづらいこともあります。
お母さんの言葉が、診断の決め手です。

この他にも...

ドクターからの健康アドバイス「ドクターズコンテンツ」
サイトでは様々な症例をご紹介します。

- 肺炎の基礎知識
- マイコプラズマの耐性菌
- ドクターからのメッセージ など掲載中

アイチケット広場



<http://park.paa.jp/>